

3月元気塾 開催報告

於：3月18日
船橋勤労市民センター
(大ホール)
参加者000名

船橋経営元気塾【同友会 西ブロック4支部合同例会】

元日本ケンタッキーフライドチキン社長

大河原 毅 氏が語る「企業発展の法則」

～“世界激変の時代”に会社が発展する方法～



株式会社ジェシー・コムサ
代表取締役 CEO 大河原 毅 氏



■はじめに

大河原氏は合併会社のサラリーマンとして上場企業(KFC)を1号店から起こし、18年間社長を勤め、さらに58才になってからまた独立をした人物です。「40年近くサラリーマンをやってきた人間が、社長の座を降り、仕事をまた興すという中でなにかがあれば(今日の講演で)吸収していただきたいと思います。人生の師匠であるカーネルサンダースも65才までに18か19の事業を興し全て失敗してきています。そして65才になってはじめてKFCに出会い人生の事業として取り組んだのだ」と話を切りだし、講演がスタートしました。

「ものごとの最初の釘の差し方は大事」です。最初ちょっとしかまがっていなくても、やっていくうちに曲がっていく。と語る大河原氏の生い立ちは、祖父の築いた会社が、小学生だった時のある日突然、倒産。父母は離婚し、家屋敷も農場も別荘もすべて人手に渡る困難な暮らしの中「子どもというのは、どうしようもないのでくやしいとも思わなかった」そうです。物心つてからの最初の人生は、「現実をみるとたまらない。過去はよかった」という暮らしからのスタートでした。その頃、時間はばかりあるので海をずっとみていて気がついたことがあります。「潮には満ち引きがある。上げ潮の時に岸にはすぐ戻れるが、引き潮のときに無理しても浜には戻れない」。世の中、人間の努力だとか何だとかいうけれど、運命とか時代の動きとかには抗しきれないものがある。そういったものは「読む」ことが大事でそのうちにいいことがあると考えるようになりました。

■ケンタッキーとの出会い

上智大学を卒業し、就職難の時代にどうにか通産省の外郭団体に入社。その職場で官僚や財界・経済界の歴々と直に接する機会があり、「何がこの人を大物にしたか。何がこの人たちを社長にしたか」をよく考えていました。そこで気がついたのは「偉い社長さんたちは、若輩者の私に、ものを頼むとき“ありがとうという”ことだったそうです。今でも氏はアルバイトさんのように一番若い、一番地位の低い人にはできるだけ丁寧に接しよう。と心がけているそうです。

外郭団体に務めていた頃「閉鎖社会ではだめで答えは海外にある」と感じ転職を決意。当時は大阪万博を控えた(株)大日本印刷の海外事業部に入社。カナダ館の仕事を受注しました。運転主兼雑用係でカナダを縦断し、その時毎日食べたのがマクドナルドとケンタッキーフライドチキンだったそうです。

日本に戻ってしばらくした時、KFC代表の方と逢いました。代表は日本でKFCを展開したいと言いました。まだ日本にはファストフードは時期尚早で、難しい一面もありましたが、KFCへ入ることとなりました。

■1号店店長から開店そして閉店

「本部のマーケティングに入れ」と言われましたがどうせなら店長。自分自身で日本なりのFCをつくってみたいと考えたそうです。

1970年に1号店が開店しましたが当初の1ヶ月、お客様がまったく来ない時間が多く、たまに来ると「チョコレートありますか」とか「床屋ですか」とか……。1号店も2号店も3号店も同じ状況で、名古屋1号店は最初にあって、最初にしめた店となりました。

米国に研修に行き、アメリカでの成功の本当の理由を聞いたところ「この仕事はノウハウやシステムでなく人である。人を大事にすれば、人がおまえを大事にする」ということでした。日本に戻ってすぐ、パートさん呼んで「もうちょっとがまんしてくれ」と言い、神戸に「自分たちの店」を本当の意味で初めて開店したのです。

■1号店～1000店舗を越えるまで

神戸の店は、自分たちでペンキを塗り、店奥の4畳半に寝泊まり。苦しかったのですが、やたら楽しかった時だったそうです。物をつくるとはこういうものだと知り、そしてはじめて利益が出ました。

同じことをやれば、ということ東京の青山、田園調布、成城と進出していきました。繁華街の反対側で安い部分を狙ってです。どんなときでもあまりあせらずキャッシュ経営、格好はつけない。『物事というのは、「ツボにはまると」すごい勢いで伸びます。この利益をどうしようかと思うぐらいです』。上司がいない分、早く昇進し取締役から社長になったあと18年間増収増益でしたが、疑問が出てきました。

KFC本体(米国)が利益重視で質に変化が起こりました。安い食材への切り替えと調理の簡略化という本部の指示を大河原氏はつっぱねました。ついに日本KFCだけがカーネルサンダースのやり方を守り続け、業界では独占状態を続けています。KFCは手作りでない味が出ません。今の日本KFC社長も3代目ですがそれを守っているそうです。

■おわりに

大河原氏は講演の結びに「どん底でもあるものはあります。タダで誰でも持てるものです。それは夢とビジョンです。夢はタダだからいくらでも描けます。それに空中でもいいからはしごをかけるとビジョンになります。私はいまだにやりたいことや、夢もいっぱいあります。カーネルも65才からです。また3年後、5年後、私も気分はまだまだ青年ですからお会いする機会があればこの続きを、どうなったかをお話したいと思います」と語ってくださいました。